

B to B 小口を置き配

病院 介護施設 神奈川県内50カ所

湘南倉庫運送

湘南倉庫運送（河野浩平社長、神奈川県平塚市）は、B to B（企業間）の小口貨物を「置き配」することで納品所要時間の短縮と納品書のペーパーレス化を図っている。専用スマートフォンアプリとQRコード付きの「スマ配プレート」を活用したもので、病院や介護施設など県内50カ所の納品先で導入。労働時間短縮や効率化の効果が確認されたことから、年度内にも100カ所に拡大する。

（吉田英行）

納品時の立ち会い不要

湘南倉庫は、神奈川県全域と東京都多摩地域の一部で、病院や介護施設向けの納品業務、衛生用品、トイレ用紙、ティッシュなど紙製品の配送を手掛けている。「エルモア」ブランドで知られるカミ商事（井川博明社長、愛媛県四国中央市）の商品で、日本

興運（井川正社長、同）が忙しいドライバーは声を掛けにくく、待つことも少なくない。担当者が不在という場合もある。朝8時半以前や昼休憩時は受け取ってもらえないケースもある

また、紙の納品書はサインをもらうのに時間がかかる上、印刷や保管にも手間がかかる。更に、イレギュラー発生時に荷主から「過去の受領書を送ってほしい」と言われることもあり、その際の作業負担も大きい。受領書にサインをもらっても字が読み取れず、「誰が受け取ったのか」と聞かれても判明しないケースなどもある。

湘南倉庫ではこうした課題を解決するため、簡易版の「スマ配プレート」を開発した専用アプリ「スマ配」を開いて「スマ配プレート」に記載されているQRコードを読み取り、その指定場所に荷物を置き、QRコード付きの「スマ配プレート」を目立つ位置に掲げて納品完了



指定場所に荷物を置き、QRコード付きの「スマ配プレート」を目立つ位置に掲げて納品完了

目立つ場所に掲げておくだけで納品が完了する。QRコードを読み取ることで、登録した受け取り担当者に納品書のURL付きのメールが送信される仕組みもある。

で、受け取り側は納品に立ち会う必要がなく、紙の納品書の受け取りやサインも不要。納品時の荷姿を写真撮影してメールで送る機能もある。

QRコードは荷物ごとの個別IDとなっており、スマートフォンからスキャンしない情報を読み取れないため、荷物に関する情報が流出する恐れがなくセキュリティを確保する。スマ配の導入に当たり、IT（情報技術）コンサルタント（情報技術）のロンドン（新堀代表、長野市）とのコラボレーションで2023年10月から納品先17社で実証実験を行い、効果を検証してきた。結果、納品時の所要時間は1件当たり3〜10分削減、受け取り側の負担軽減、配送の効率性アップ、ドライバーの労働時間短縮、トラックの二酸化炭素（CO₂）排出量削減といったメリットが確認された。こうした効果を荷主にアピールすることで置き配納品を拡大。24年度内に100カ所に広げる計画だ。更に、病院介護施設に加え、11月からは県内と都内の一部のホテルへの紙製品納品でも置き配を始める。医療や介護、ホテルなどの業種は人手不足が深刻なことから、受け取り側の負担軽減になる置き配の需要は広がると見込んでいる。湘南倉庫の榎本平事業開発部長は「労務管理や配送効率の検証にも役立つ。結果を積み重ねて拡大していく」と話している。

年度内、100カ所に拡大